

## 研究に関する情報公開

<人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

### <研究課題名>

胃腸炎関連微生物の診断、分子疫学、病態、予防等に関する研究

### <研究機関・研究責任者名>

日本大学医学部 病態病理学系微生物学分野 教授 早川 智

### <研究期間>

平成 23 年（西暦 2011）3 月 3 日 ～ 令和 9（西暦 2027）年 7 月 31 日

### <研究の目的と意義>

ロタウイルス、ノロウイルスなどウイルス性下痢症はいわゆる胃腸風邪としてよく見られますが、時に重篤な経過を辿ります。そこで、原因ウイルスの確定、強毒性ウイルスや免疫応答に及ぼす影響、リスク因子の解析を行うことによって、より良い診断法、予防法（ワクチン含めて）、治療法の確立を目指します。また、リバーシジェネチクス法や iPS 細胞等を用いた培養法の確立によるウイルス複製とその制御機構の解明、抗ウイルス薬やワクチンの開発により、健康の改善に繋がると考えております。

### <利用する試料・情報の項目>

糞便は約 0.1-0.3g、乳幼児はオムツ、それ以上の年齢では直接採取します。

病態によって、血液、髄液、尿、母乳、唾液などを解析に使用します。いずれも臨床検査に用いた残検体とし、母乳は児への授乳後、提供可能な場合に 1ml 採取します。

個人情報を除く臨床情報（年齢、性別、病態、ワクチン接種歴など）を収集します。

### <対象となる方>

本研究期間に、下記研究協力施設に来院された方

### <研究の方法>

検体からウイルス遺伝子を抽出し、遺伝子増幅、遺伝子解析し分子疫学的研究や基礎研究に用います。

### <外部への試料・情報の提供の方法>

共同研究機関である大阪大学および和歌山県立医科大学に、戴いた検体の一部を譲渡します。検体には個人情報とは関係のないコードを付与して匿名化し、コードと個人を結びつける対応表は提供しません。

検体は密閉し輸送します。個人情報を除く臨床情報は、書留等の記録のつく郵送方法もしくはパスワードを付した電子データで提供します。

<研究組織>

研究共同機関

国立大学法人 大阪大学 微生物病研究所 ウイルス免疫分野 教授 小林 剛

公立大学法人 和歌山県立医科大学 薬学部 病態生理学研究室 教授 佐藤 慎太郎

研究協力施設

① 小林小児科 院長 小林 正明

② 西村医院 院長 西村 修一

③ すぎた子どもクリニック 院長 杉田 久美子

④ ひきた小児科クリニック 院長 疋田 敏之

⑤ 博慈会記念総合病院 副院長・小児科部長 田島 剛

⑥ 医療法人 堀ノ内病院 小児科 牛島 廣治

⑦ 医療法人財団小畑会 浜田病院 院長 合阪 幸三

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部（東京都板橋区大谷口上町 30-1）

病態病理学系微生物学分野 氏名：牛島 廣治

電話：03-3972-8111 内線：（第3研究室）2263